

令和2年度(令和元年度実施事業分)事務事業評価評価票

No. 13-007

PDCA	事務事業名	畜産臭気監視事業	部課等名	市民経済部 環境課	担当	森下	
					内線等	333	
P 総合計画との関係性等	政策体系	章： 第3章 にぎわいの創出と良好な環境が両立するまち					
		節： 第3節 生活環境の向上					
		基本施策： 3. 環境衛生対策					
		単位施策： (2) 環境衛生の維持・予防					
	根拠法令等	悪臭防止法					
	対象・目的	良好な生活環境を確保するため、畜産事業所から発生する臭気を監視し、その低減を図る。					
	目的を達成するための手段・活動内容	大同大学との共同研究で開発したハンディタイプの簡易臭気センサーを活用し、市内の全畜産施設の臭気測定を実施する。センサーの値が高い畜産施設においては臭気指数測定を行い、臭気指数が高い事業所に対しては、共同研究で得られた臭気低減方法の実践を働きかけ、住宅地における畜産臭気の低減を図る。 また、乾燥施設投入時のふん尿の含水率が高いと悪臭の発生原因となるため、臭気測定の際に含水率を測定し、結果を畜産農家に通知する。					
D 前年度の活動結果と見られた成果	活動結果	活動実績	29年度	30年度	元年度	単位	
		大学との共同研究(現地調査等)【H30年度で終了】	22	25	—	回	
		臭気指数測定実施件数(延べ)	84	50	162	件	
		事業費	3,869	3,462	787	千円	
		人件費	4,442	4,372	1,863	千円	
		総事業費	8,311	7,834	2,650	千円	
		活動単位当たりのコスト	29年度	30年度	元年度	単位	
	市民1人あたりの臭気対策コスト	70	65	22	円		
	成 果	成果指標	29年度	30年度	元年度	単位	
		臭気指数15以下の畜産事業所の割合	実績値	100.0	100.0	94.4	%
			目標値	90.0	90.0	100.0	
			実績値				
			目標値				
		実績値					
		目標値					
C 課題の整理		観点別評価	必要性	有効性		効率性	
	①市の関与の妥当性 法定事務		④上位施策への貢献	大きい	⑦コスト削減余地	ある	
	②市民ニーズ 高い		⑤成果向上の余地	ある	※対象・手段の変更		
		③休廃止の影響 大きい	⑥類似事業の有無	ある	⑧受益者負担適正化余地	—	
	事業の評価・課題	B					
		大同大学との共同研究で開発した簡易臭気センサーを活用することで、これまで専門業者に委託することでできなかった臭気可視化(数値化)ができるようになり、効率的な臭気測定を実施することができた。また、同じく共同研究で得た知見を活かし、ふん尿の含水率の調整に臭気対策の焦点を絞ることで、畜産農家に対して分かりやすい指導・助言を行うことができた。ただし、継続して強い臭気が発生している施設もあり、それらの施設の臭気をいかにして低減するかが課題である。					
		改善推進					
A 課題解決のための目標	今後の事業の方向性	継続して強い臭気が発生している施設に関しては、これまでも含水率の調整や畜舎の清掃などの指導・助言を行ってきた。ふん尿の量が乾燥施設の処理能力をオーバーしている可能性も考えられるため、今後は、飼養頭数と乾燥施設の面積等にも着目する。臭気指数が高い傾向にある畜産農家がある程度絞られてきたので、集中的に、臭気問題の解決に取り組む。					
	令和2年度の目標	成果指標			目標値	単位	
		臭気指数15以下の畜産施設の割合			100	%	